

事業所名	Switch宇土
------	----------

支援プログラム（参考様式）

作成日

R6年

7月

29日

法人（事業所）理念	我々にとって仕事とは「人」の未来を輝かせるための日々の努力である。 人とはお客様だけでなく、スタッフ、友人、家族、また自分自身であることを忘れず、日々、改善改良を心がける。		
支援方針	志誠会グループの療育は、保育・教育・医療という3つの知識を基礎とした人材育成の場である。 職員一人一人が療育者として分野を超えて学び、児童、保護者、所属環境への包括的支援を心がける。		
営業時間	8時	30分から	17時30分まで
	送迎実施の有無	・あり：AM児童発達支援 / PM放課後等デイサービス	
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	アセスメントシートの結果やご家庭及び関係機関(保育所や学校等)からの聞きとった情報をもとに、利用開始初期のプログラムを立案します。利用開始からの時間の経過の中で、例えば、手洗い、排泄、更衣などの健康を維持しかつ生活を自立させるために必要となるスキルを保育士等のアドバイスのもと小集団療育や個別療育の中でアップデートしながら取り組みます。	
	運動・感覚	アセスメントシートの結果やご家庭及び関係機関(保育所や学校等)からの聞きとった情報をもとに、利用開始初期のプログラムを立案します。利用開始からの時間の経過の中で、例えば、よく転ぶ、まっすぐ歩けない(走れない)、ボールや遊具の操作が苦手などの項目に対するプログラムを理学療法士等のアドバイスのもと標的行動を定め、段階的な支援を行います。また感覚の過敏さ等に対して、例えば聴覚ではイヤーマフ等の支援具の提案や、個室による音への配慮を行った支援などを検討します。	
	認知・行動	アセスメントシートの結果やご家庭及び関係機関(保育所や学校等)からの聞きとった情報をもとに、利用開始初期のプログラムを立案します。利用開始からの時間の経過の中で、例えば、相手の真似をする、指示を理解し適した行動をとる、物の名称を覚えるなどの項目に苦手さがある場合に、応用行動分析に基づいてトークンシステム等による「行動の強化」や、スケジュールの視覚化といった支援を取り入れて支援を行います。	
	言語 コミュニケーション	アセスメントシートの結果やご家庭及び関係機関(保育所や学校等)からの聞きとった情報をもとに、利用開始初期のプログラムを立案します。利用開始からの時間の経過の中で、例えば「ちょうだい」「いや」などの要求を引き出したり、質問に答えるスキルや、「ありがとう」「いただきます」「ごちそうさま」と感謝を伝えることを、言葉・絵カード・筆談等で達成できるように支援します。	
	人間関係 社会性	アセスメントシートの結果やご家庭及び関係機関(保育所や学校等)からの聞きとった情報をもとに、利用開始初期のプログラムを立案します。利用開始からの時間の経過の中で、例えば、勝負事に負けても自分や相手を許せる、遊びの順番を交代できる、謝ったり感謝を伝えられるといったスキルを育成します。SSTカードの使用や小集団での遊びの中に療育者が介入しモデリング(お手本)や言語プロンプト(声かけ)を用いて支援します。	
家族支援	健康状態の管理方法、発達段階に応じた生活スキルの評価などを会議等の場で伝え、随時電話や公式LINEでの助言を行います。就学前には就学相談会を開催し保護者からの相談にも応じます。	移行支援	未就園児の早期対応や、その後の就園へ向けた就園先への情報提供、また就学に伴う就学支援シートやサポートブックの作成協力、学童(放課後児童クラブ)を利用する際の学童への助言等も求めに応じて行います。
地域支援・地域連携	地域子ども部会(自立支援協議会)への参加、利用児童の就園就学先との意見交換、就学前の学校見学への動向、利用児童が通院する医療機関(発達検査等)との連携、同一法人が運営する相談支援事業所との連携等を行います。	職員の質の向上	全職員合同研修(大研修会)を年間3回、熊本県内/県外/海外の療育関連施設への視察研修(研究療育)を年間複数回、事例検討会を年間8回(8題)など様々な取り組みを行っています。
主な行事等	4月(関係機関の新担任への挨拶、定期運動評価)、5月(避難訓練、就学先の見学案内(年長)、転籍相談(小学生等))、6月(就学相談会①(年長))、8月(親子交流会)、9月(年中児童への発達検査の勧め)、10月(就学相談会②(希望者のみ))、11月(次年度の療育利用希望調査)、2月(事業所自己評価表配布)、3月(事業所自己評価表公表、虐待防止研修)		